# コミュニケーション力を高める英語の授業(3)
## ―どのように授業の中にプロジェクト活動を取り組んでいくのか―

林　秀樹　Hayashi Hideki　（滋賀大学教育学部附属中学校）

## 1. はじめに

最終回では，自分の思いや意見を自分の言葉で表現し，交流する活動を紹介します。このような活動は生徒にとってはハードルが高く，難しいと思われるかもしれませんが，自分の伝えたいことを英語で伝えることができるようになることが，英語学習の大きな目標のひとつだと思います。また，自分の伝えたいことを英語で伝えられた経験が生徒の意欲を増し，自信につながります。その表現活動のために必要な２つの実践例とディベート活動を紹介します。

## 2. 伝えたいことを整理し，深める

伝える活動としてスピーチがあります。スピーチを行う際には内容をしっかり考える必要があります。その際に大切にしていることが２つあります。

① テーマがぶれないこと〈話に一貫性があること〉
② 論理的であること〈相手にわかりやすく伝える〉

これらを視覚的に自分で確認できるようにワークシートを作成し，スピーチの内容を考えさせます。

例１『自分の経験を手紙形式で相手に伝えよう』

中央の「これまで経験してきたこと」から，「始めた理由」「それを通して経験したこと」「現状」「これからについて」「読み手へのメッセージ」をまとめさせました。

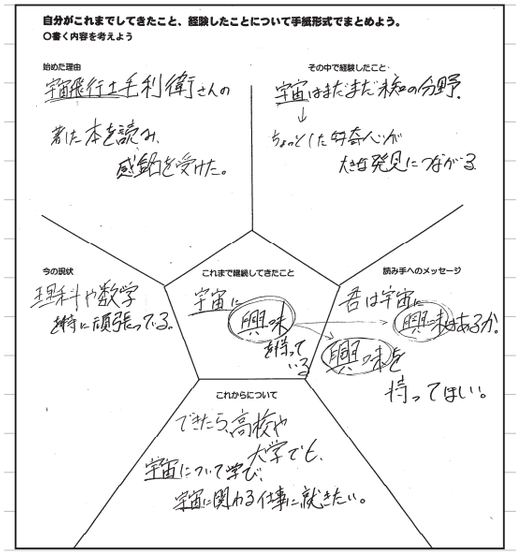
例２『私の思い～自分が今1番みんなに伝えたいこと～』

「1 番伝えたいこと」から「内容 1，2，3」のそれぞれに２つずつそれに関わるエピソードを書き，最後に伝えたいメッセージをまとめさせました。

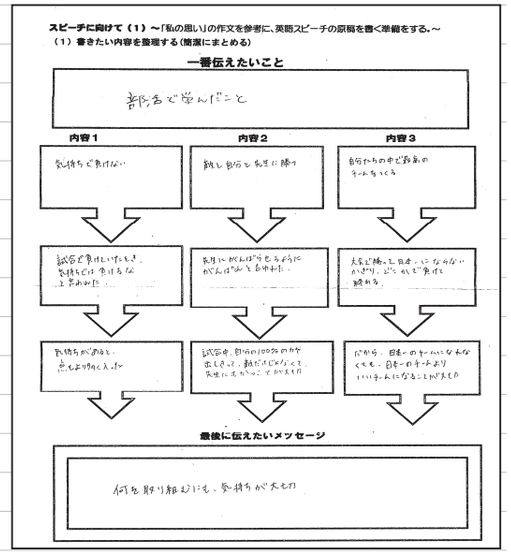
これらのワークシートを最初に使うことで，「書くことがない」と言う生徒は減少します。相手に伝えるときに論理的に伝えることの大切さを学ぶことができ，それがディベートにもつながっていきます。

## 3. 伝えたい内容を英語で伝える

内容を整理し，まとめられたら，次はそれを英語にしていくことが必要になります。ここが１番の課題になると思います。よく「英作文は英借文」と言われています。




例１のワークシート

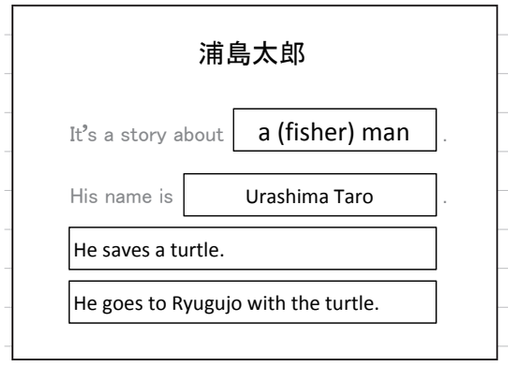


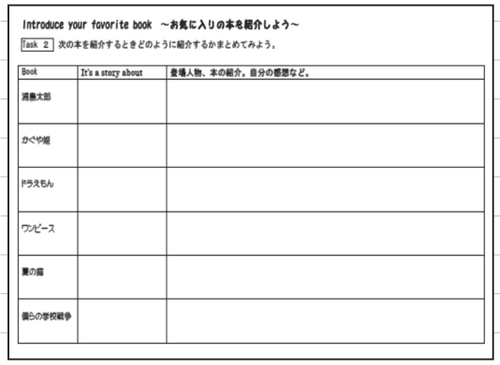

例２のワークシート



インプットしているものの中から，自分の伝えたいことを伝えるときに使えるものを利用して書くことがまず大切です。前回（第２回）の項でも述べた教科書の活用の大切なポイントである，「教科書の表現を自分の言葉として使える」ことがここで生きてきます。生徒達は教科書に出てくる表現をたくさん利用します。このことにより，教科書の表現が自分の言葉として使えることがわかり，教科書の音読などの練習も真剣にするようになります。

次に大切になるのが，例の提示です。表現の活動の前に，最初にたくさん例を提示します。よいモデルが生徒達のゴールになっていきます。例えば，『自分のお気に入りの本を紹介しよう』という課題では，パワーポイントとワークシートを用いて様々な例を示しながら，英語の文の使い方を示していきます。





Introduce your favorite book　～お気に入りの本を紹介しよう～

Task 2　次の本を紹介するときどのように紹介するかまとめてみよう。

| Book | It's a story about | 登場人物、本の紹介、自分の感想など。 |
|---|---|---|
| 浦島太郎 | | |
| かぐや姫 | | |
| ドラえもん | | |
| ワンピース | | |
| 夏の扉 | | |
| 僕らの学校戦争 | | |

また，生徒達はとにかく言いたいことをそのまま英語にしようとします。まず，生徒達に英語でどう表現して良いかわからない文を，黒板の右半分に自由に書かせます。そこにはこんな文がありました。

「彼と私の誕生日は同じである。」

それを，クラスみんなで，どう表現するかを考えていきます。生徒達は「同じ」という単語が英語でどういうかわからず，困っています。すると生徒は，

$S_1$: When is his birthday?
$S_2$: It's ○ △.
$S_1$: じゃ，こう言える。My birthday is ○△.
　　His birthday is ○ △ too.

他の聞いている生徒は「なるほど」と言っていました。また，右半分に生徒と考えながら英語に直していく際には，右半分の黒板の上部に，

誰が（主語）→どうする（動詞）→だれ［何］を
→どのように(how)→どこ(where)→いつ(when)
→なぜ(why)

などの語順の一覧表を黒板に貼り，クラスみんなで協力しながら，それらに言葉を当てはめさせ，英語に直していきます。こういう語順でどのような言葉で言えるかを確認できた段階で，未習の単語が出てきたときには，辞書で調べるよう，指示を出します。ただ闇雲に辞書を使わせると，全く自分では理解できていない例文を丸写ししてしまいます。

生徒はよく単語一語わからないとその文全体が言えなくなってしまいます。それでは，いつまで経っても自分の言いたいことを表現できるようになりません。次の４つのルールが大切です。

① 「言いたいこと」を「言えること」に直して書く
② 日本語の表現にこだわりすぎない
③ 主語と動詞が必ずある文
④ なるべく単文を多用する
⑤ 辞書はどういう文かを頭で整理してから使う

## 4. ディベート活動

前記で紹介したような活動を１年生から定期的に行うことで，自分の伝えたいことを英語で伝える力が少しずつ身に付いていきます。最後に紹介するディベート活動はそれらの積み重ねの上に成り立っていると考えていただきたいと思います。

(1) 課題の設定

話し合うお題により，ディベートの盛り上がり方は大きく変わってきます。最初はよくある「弁当 vs 給食」などもよいと思います。生徒の興味も大事なので，生徒にディベートでやってみたいお題を募集しました。すると，時事ネタ，学校生活に関すること，自分たちの興味のあることなど様々なものが出

てきました。ただ，それらのどれが適しているかを選ぶ際，その話題で話すときの単語の難易度も大きな要素になります。でももっと大事なのは，賛成，反対どちらにしろ，根拠がたくさん述べられるかと言うことです。「好きなものは好き」みたいな話になるとディベートとして盛り上がりません。

(2) 意見を述べる

次は意見が言えるようになることが大切です。そこで行ったのが，opinion レースです。ペアで一方がひとつ意見を述べます。例えば，

$S_3$: I like The Beatles.

$S_4$: Why do you like The Beatles?

$S_3$: Because their songs are good.

$S_4$: Why do you think their songs are good?

$S_3$: The melody of the songs is good.

$S_4$ Anything else?

$S_3$ は自分の述べた文の理由や例を述べていきます。$S_4$ は，相手の意見に対し，質問を続けます。どれだけの数の意見を言えたかを競います。

次に，相手の意見に応じて，意見を言う練習をします。“Summer vacation is better than winter vacation.” というお題でペアになり賛成と反対の立場に分かれ意見を言い合います。ただ意見を述べるのではなく，ここでは相手の意見に対応した意見を述べ合うことが重要です。賛成の意見 “We can enjoy swimming in summer vacation.” に対し，反対の意見 “We have more homework in summer vacation than in winter vacation.” では，相手の意見に対応していないことになります。“I see your point, but we can enjoy skiing in winter vacation.” と言えば対応します。

最初は紙を交換しながら，紙上で意見の交流を行います。紙上で行うことで，相手の意見を読んで確認でき，反論しやすくなります。また，相手の意見で使えるものがあるときは，利用して意見を述べることができるようになり，ディベートで使う表現が定着していきます。

そして，ディベートのまとめとして，8 人のグループで様々なトピックでディベートを行いました。ジャッジの仕方も事前に練習を行います。

Topic: Is summer vacation better than winter vacation?

肯定側(Yes / I agree)

| No. | Reasons・Opinions | 得点 |
|---|---|---|
| 1 | We have a summer festival. | |
| 4 | Summer vacation is very long. So, we have much free time. We can enjoy many things, such as swimming in the sea, traveling . | |
| 6 | We can enjoy eating ice creams. Ice creams are very delicious. | |
| 8 | We have some exciting events in summer vacation, too. We have obon. | |
| 10 | In Obon we can see many 提灯, they sometimes give me some お小遣い. I'm very happy. | |
| 12 | Sky in summer vacation is very beautiful. | |
| 14 | We have much homework. We can study more. | |
| 16 | So you have to study more. | |

否定側(No / I don't agree)

| No. | Reasons・Opinions | 得点 |
|---|---|---|
| 2 | I don't like it, because too many people are there. It's very crowded. I'm very tired. | |
| 3 | Summer vacation is too long. I miss my friends. | |
| 5 | I can't swim. I like skiing better than swimming. | |
| 7 | If you eat much ice creams, you will have stomachache. | |
| 9 | We have many exciting events, such as Christmas, new year's day. | |
| 11 | New year's day is better than obon because we can get otoshidama. | |
| 13 | Sky in winter vacation is clean. We can see many stars at night. | |
| 15 | I don't like math. It's very difficult. | |
| 17 | We have 書き初め home work. It's Japanese tradition. 書き初め is good for Japanese. | |

点数のつけ方 (加点方式) 一つ理由や意見を言う→1 点，
○英語の表現が優れている(+1 点)
○情報がある(説得力がある or 相手の意見に対応している(+1～3 点))
最高得点：5 点

ジャッジ：綿者（ 肯定側：林さん ・ 否定側：森さん ）
コメント（ ）
記入者（ ）

7. 本時の目標

・単元目標（1）・評価規準①：ディベートで役割ごとに積極的に活動している。

・評価規準②：身近な社会的な事柄について，メモに基づき，自分の意見を理由とともに述べたり，議論することができる。

8. 本時の学習過程（第4時）

| | 学習内容と学習活動 | 指導上の留意点，★思・判・表を伸ばす方策，◆評価 |
|---|---|---|
| 導入 | 1. 今日の目標を確認する。<br>**本時の目標：ディベートに挑戦しよう。～説得力のある意見を述べよう～** | |
| | 2. グループでディベートをするのに必要な事柄を決める<br>①役割（ジャッジ，肯定側，否定側）を決める<br>②2つの議題を，紙に書いておく。 | ・グループでのディベートがスムーズに進むように，対戦と役割の順番を提示する。<br>・今日の議題を提示する。 |
| 展開 | 3. 本日の議題それぞれに対して自分の意見を肯定側と否定側，またそれに対しての予想される反駁意見のメモを見直す。 | ・このときは辞書を使用してもよいが，相手に伝えることが目的であり，相手に伝わらないような難解な単語などを使わずに。相手に伝わるような表現を使うように指導する。<br>・相手に明確に伝わるように音読しながら確認するように指導する。<br>**◆[表現]②：ノート** |
| | 4. それぞれのグループでディベートを行う。<br>やり方<br>①A:肯定側，B：否定側，C,D:ジャッジで5分間ディベートを行う。<br>②その後1分間ジャッジはフローチャートを基に相談して，勝敗を決定する。<br>この手順で役割をスライド交代しながら，4回行う。議題は二つ行う。<br>1回目　議題　A<br>A:肯定側，B:否定側，C,D：ジャッジ<br>2回目　議題B<br>B:肯定側，C:否定側，D,A：ジャッジ<br>3回目　議題A<br>C:肯定側，D:否定側，A,B：ジャッジ<br>4回目　議題B<br>D:肯定側，A:否定側，B,C：ジャッジ | **★相手の意見をふまえて，自分の意見を適切に相手に伝える方法を思考・判断する。ジャッジの立場で，対立する二者の意見を聞き，より論理的に判断し，意見が述べられているかを判断する。**<br>・ディベートがスムーズに行われるようにタイムキーパーの役割を果たす。<br>・グループでそれぞれの役割が機能しているかを観察し，うまくいっていないグループがあれば支援を行う。<br>・ボイスレコーダーをそれぞれのグループに配り，次の時間に振り返りの時に使うこととそれで評価することも伝えて，自分たちのグループのディベートを録音するように指示する。<br>**◆[意欲・関心]①：観察，ボイスレコーダー**<br>**◆[意欲・関心]②：ジャッジペーパー，ボイスレコーダー** |
| まとめ | 8.本時のまとめをする。 | ・次時にボイスレコーダーを使って，今日の振り返りをすることを伝える。 |

9. 資料・教具・準備など

作業　：　生徒用ワークシート，ボイスレコーダー，プレゼンテーションソフト

## 5. おわりに

英語でディベートをするのは中学生にとっては困難な課題かもしれません。生徒の現状と課題に合わせた授業をすることはとても大切です。しかし，『生徒にこんなことができるようになってほしい』という願いと目標を持たないと，毎日の授業をただ，こなすだけになってしまいます。

人との関わりの中でしかコミュニケーション能力は育たないと思います。まだまだ課題はたくさんありますが，授業に様々なプロジェクト活動を取り入れ，人としっかりと関わっていける力を育てられる授業を作り上げていくことに挑戦していきたいです。